

この時代である。

もし同じことが今の日本で起きたらどうなるか。物価が六十倍になったとすると、国の借金が一千兆円あったとしても、その実質価値は十六兆円ほどに減少する。他方で千四百兆円の個人金融資産の大部分を占める名目資産の実質価値は、六十分の一に下落する。右で述べたような苦しい経験が実際にあるので、制度的につきの二つの歯止めが設けられている。

第一は、建設国債の規定だ。財政法第四条は、そもそも借金で国の歳出をまかなうことを禁じている。例外は、未来に資産を残すことのできる公共事業への支出などだけだ。ところが景気が悪化した九八年頃から、特別立法による公共事業目的以外の「特別国債」の発行が膨らんで恒常化した。二〇一〇年度予算に至っては、「特別国債」だけで三十八兆円になっている。財政法第四条は完全に空文化しており、この規定はもはや国債発行の歯止めとしては機能していない。

しかし、これまでの日本に関するかぎり、これは間違いである。

この考えは、「国債が国全体としての外国に対する債務」との誤解に基づいている。この誤解にとらわれているため、「担保が必要」という発想になり、本稿の最初に述べたように、「千四百兆円の個人金融資産がある」とか、「いや個人金融資産から債務を引いたものが担保だ」という誤った議論になるのだ。

しかし、これまでのところ、日本国債の大部分は内国債である。家計にたとえれば、銀行や高利貸など外部からの借り入れではなく、夫が妻に借金するようなものだ。だから、担保は必要ない。さらに言えば、子供が借金の返済に苦勞することも無い。つまり、負担が将来世代に移転することはない（増税して内国債を償還すれば、税負担は増える。しかし、他方で償還を受けるので、差し引きの国民負担が増えるわけではない）。

だが、「家計内の貸し借りだから

第二の歯止めは、財政法第五条による日銀引受け国債発行の禁止である。

この規定は、形式的には守られているが、つぎの二つの問題がある。

第一に、日銀は、銀行が保有する国債を買い上げることができる。これは市中に資金を供給する方式の一つであり、そのこと自体が問題であるわけではない。しかし、もし政治からのプレッシャーを受けて日銀が国債買い取りを増せば、実質的には直接引受けと似た効果が生じる（現在日銀の国債保有残高は六十八兆円である）。

第二は、財政法第五条の但し書きにおいて、「特別の事由がある場合において、国会の議決を経た金額の範囲内では、この限りでない」とされていることだ。もし民主党が衆参ともに多数を占めた場合には、第五条の縛りは簡単に外すことができる。こうみてるのと、国債発行に対する制度的な歯止めは、まことに心もとないことがわかる。

なお、政府紙幣を発行すればよいと

いう考えがあるが、これは、日銀引受けで金利ゼロの国債を出すことと同じである。つまり、叡智を積み重ねて作った近代的貨幣制度を捨て去り、江戸時代に戻って藩札を増発しようという反知性的な提案なのだ。

以上から分かるように、実質財政赤字解消のためにインフレが引き起こされる可能性は、決して杞憂ではない。「デフレからの脱却」という大合唱があるなかで「インフレこそが恐ろしい」と言えば、「何たる見当違い」と思われるだろう。しかし、冒頭で述べた一〇年度予算の姿は、インフレが決して見当違いでも狼少年の警告でもなく、むしろ必然であることを示しているのである。

国債発行はなぜ問題なのか

ところで、大量の国債発行は、なぜ問題なのだろうか？

多くの人は、「将来世代が返済の義務を負うからだ」と答えるだろう。し

（内国債だから）、問題ない」とは言えない。夫の借金（国債）は酒代（無駄な財政支出）のためであり、店を営

する妻（民間部門）が、店の改装費（工場などへの投資）を犠牲にして貸しているのだとしよう。その場合には、夫の無駄づかいのために店が改装できず、店の将来の収入は減る（国の将来の生産力は落ちる）だろう。このように、家計内の貸借（内国債）であっても、重大な問題を引き起こすのだ。

これまで大きな問題と感ぜられなかったのは、店の収入が順調に伸びていた（経済成長があった）からだ。このため、夫の借金に応じる資金（貯蓄残高）が増え続けていたのだ。

だが、この条件はいまや大きく変わった。店の収入が激減し（経済危機で企業の売上や利益が激減し）、他方で夫の酒量が増えた（選挙目当ての無駄な財政支出が急増した）からだ。

ところが、表面上はまだ問題が生じたようには見えない（国債の消化は順調に進んでいる）。ただし、その理由

は、妻が店を改修する意欲を失ってしまった（民間の投資支出が激減した）ことだ。この状態が続けば、店はさびれて客足は遠のくだろう（実際、この数年、日本の固定資本形成は固定資本減耗を下回っている。更新が進まないで将来の設備は老朽化し、生産力が低下する）。

夫の借金が目立って増えたのは、家計に問題が生じたこと（シグナルである）。「店の収入が減り、夫の酒量が増えたことが問題だ」と警告しているのは、まずなによりも、店の収入を増やすことだ。そして、夫の無駄遣いをやめさせることだ。酒をやめられず店の収入も増えなければ、銀行から借りるしかない。しかし、酒を飲むために借りようとしても、銀行は貸してくれないだろう。

国の場合も同じだ。国債発行の急増は、日本の経済と財政が深刻な問題を抱えていることを示すシグナルなのである。必要なのは、それに対処するこ